

# 平成 29 年度 ハブクラゲ等危害防止対策事業報告書



平成 30 年 2 月  
沖縄県衛生環境研究所

# 平成 29 年度ハブクラゲ等危害防止対策事業報告書

## 目次

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1. 海洋危険生物による刺咬症事故の概要 - 平成 29 年 - | 1 |
|----------------------------------|---|

# 海洋危険生物による刺咬症事故の概要－平成 29 年－

衛生生物班 福地齊志・安座間安仙・久高潤

## I. はじめに

本報告では、平成 29 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに沖縄県内で発生した海洋危険生物による刺咬症事故についてまとめた。

## II. 調査方法

1998 年に制定された「ハブクラゲ等危害防止対策事務処理要領」に基づき、医療機関および監視機関等から報告された海洋危険生物刺咬症事故調査票を集計した。加害生物名は調査票で報告されている生物名で集計を行い、集計には『疑い』と報告されたものも含めた。標準名で報告されていないものは、報告された名称に類をつけてまとめて集計した。

## III. 結果

平成 29 年に報告のあった刺咬症事故は 268 件だった。平成 28 年の刺咬症事故報告数 254 件と比較すると 14 件増加した。ハブクラゲによる刺咬症事故は 118 件報告されており、平成 28 年の 145 件より 27 件減少した。

### 1. 被害者の概要

被害総数 268 件のうち、男性が 127 件(47.4%)、女性が 137 件(51.1%)、不明が 4 件(1.5%)であった(表 1)。

年齢階級別では 10 代が最も多く 79 件(29.5%)、次いで 10 歳未満の 65 件(24.2%)、20 代の 56 件(20.9%)、30 代の 31 件(11.6%)、40 代の 19 件(7.1%)、50 代の 8 件(3.0%)、60 代以上の 7 件(2.6%)、年代不明 3 件(1.1%)であった(表 1)。

居住地別では県内在住者 118 件(44.0%)、海外を除く県外在住者 133 件(49.6%)、海外在住者 4 件(1.5%)、不明 13 件(4.9%)であった(図 1. 表 2)。5 件以上の県外在住者の内訳としては、東京都が最も多く 35 件(13.1%)、次いで神奈川県が 18 件(6.7%)、大阪府が 15 件(5.6%)、埼玉県が 9 件(3.3%)、兵庫県および愛知県が各 6 件(2.2%)、千葉県および群馬県が各 5 件(1.9%)であった(表 2)。

表 1. 沖縄県における性別年齢別被害報告件数(平成 29 年)

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	合計
男	28	42	24	15	13	3	2	0	127
女	36	34	32	16	6	5	5	3	137
不明	1	3	0	0	0	0	0	0	4
合計	65	79	56	31	19	8	7	3	268

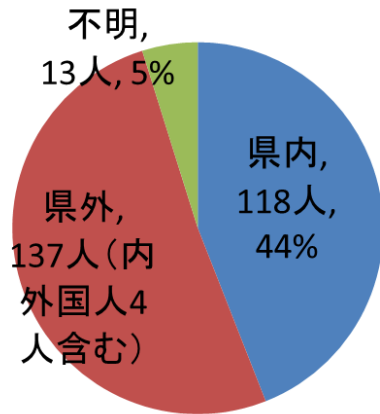


図 1 沖縄県における平成 29 年の海洋危険生物による居住地別刺咬症件数

## 2. 発生場所

最も多かったのは北部保健所管轄内の 83 件(31.0%)で、次いで中部保健所管轄内の 81 件(30.2%)、八重山保健所管轄内の 39 件(14.6%)、南部保健所管轄内の 37 件(13.8%)、宮古保健所管轄内の 28 件(10.4%)であった(表 3)。

市町村別で 10 件以上の被害報告がされたのは北谷町が 31 件(11.6%)と最も多く、続いて今帰仁村および石垣市で各 30 件(11.2%)、宮古島市で 28 件(10.4%)、うるま市で 26 件(9.7%)、本部町および名護市で各 21 件(7.8%)、豊見城市で 12 件(4.5%)、座間味村で 11 件(4.1%)であった(表 3)。

## 3. 発生時期

刺咬症被害は 1～11 月で発生しているが、特に 7 月から 8 月の間に集中しており、2 ヶ月で計 197 件(73.5%)におよんだ(表 3)。

## 4. 加害生物と被害の重症度

加害生物は刺胞動物が 181 件(67.5%)と最も多く、そのうち 118 件(44.0%)がハブクラゲで、36 件(13.4%)がクラゲ類、25 件(9.3%)がカツオノエボシとして報告されたものであった。その他の刺胞動物ではガヤ類および不明刺胞動物で各 1 件の被害が報告された(表 4)。

魚類では 23 件(8.9%)の報告があり、オコゼ類 8 件、オニダルマオコゼ 6 件、ミノカサゴ、カサゴ類およびウツボで各 2 件、エイ、ゴンズイおよびフトツノザメで各 1 件の被害が報告された(表 4)。

棘皮動物ではガンガゼで 11 件、ウニ類で 4 件、オニヒトデで 1 件の被害が報告された。その他に甲殻類ではゾエアで 1 件、軟体動物でタコの報告が 1 件あり、加害生物不明で 46 件(17.2%)の被害が報告された(表 4)。

被害症状は、軽症 197 件(73.5%)、中等症 22 件(8.2%)、重症 2 件(0.8%)、重症度不明 47 件(17.5%)

表 2. 沖縄県における居住地別被害報告件数(平成 29 年)

居住地	報告件数
沖縄県	118
東京都	35
神奈川県	18
大阪府	15
埼玉県	9
愛知県	6
兵庫県	6
千葉県	5
群馬県	5
海外	4
宮城県	3
京都府	3
熊本県	3
福岡県	3
広島県	2
佐賀県	2
北海道	2
香川県	1
岩手県	1
三重県	1
岐阜県	1
山梨県	1
秋田県	1
新潟県	1
静岡県	1
大分県	1
長崎県	1
長野県	1
栃木県	1
奈良県	1
福島県	1
不明県外	2
居住地不明	13
合計	268

であった。重症はハブクラゲによるものが2件であった。中等症はハブクラゲによるものが10件で、クラゲ類およびカツオノエボシで各2件、オニダルマオコゼおよびフトツノザメで各1件、加害生物不明で6件の報告があった(表5)。

表3. 沖縄県における月別市町村別被害報告件数(平成29年)

市町村名	発生月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
北部保健所	今帰仁村	0	0	0	0	0	1	11	6	7	5	0	0	30
	本部町	0	0	0	0	1	2	6	8	3	1	0	0	21
	名護市	0	0	0	0	0	0	6	8	4	3	0	0	21
	大宜味村	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
	伊江村	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	国頭村	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	5
	小計	0	0	1	0	1	3	26	27	15	10	0	0	83
中部保健所	北谷町	0	0	0	0	0	1	28	2	0	0	0	0	31
	うるま市	0	0	0	0	0	0	4	21	1	0	0	0	26
	読谷村	0	0	0	0	3	0	0	5	0	0	0	0	8
	嘉手納町	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
	恩納村	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
	金武町	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	宜野座村	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	中城村	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
小計	1	0	0	0	3	1	34	38	4	0	0	0	81	
南部保健所	豊見城市	0	1	0	0	0	0	3	8	0	0	0	0	12
	座間味村	0	0	0	0	1	1	6	0	2	0	1	0	11
	南城市	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	5
	那覇市	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
	糸満市	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	久米島町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	与那原町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
小計	0	1	0	0	1	3	12	15	3	0	2	0	37	
宮古保健所	宮古島市	1	1	0	0	0	1	10	8	5	2	0	0	28
小計	1	1	0	0	0	1	10	8	5	2	0	0	28	
八重山保健所	石垣市	0	0	0	1	0	2	15	6	2	3	1	0	30
	竹富町	0	0	0	1	1	0	2	4	1	0	0	0	9
	小計	0	0	0	2	1	2	17	10	3	3	1	0	39
合計	2	2	1	2	6	10	99	98	30	15	3	0	268	

表4. 沖縄県における月別加害生物別被害報告件数(平成29年)

加害生物	発生月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
刺胞動物	ハブクラゲ	0	0	0	1	1	2	54	48	12	0	0	0	118
	クラゲ類	0	0	0	0	1	0	15	16	3	0	1	0	36
	カツオノエボシ	0	0	0	1	0	1	5	13	2	2	1	0	25
	ガヤ類	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	不明刺胞動物	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
小計	0	0	0	2	2	3	75	78	17	2	2	0	181	
魚類	オコゼ類	1	1	0	0	2	1	2	0	1	0	0	0	8
	オニダルマオコゼ	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	6
	カサゴ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	ミノカサゴ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	ウツボ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	エイ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ゴンスイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	フトツサメ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
小計	2	1	0	0	3	4	6	1	2	3	1	0	23	
棘皮動物	ガンガゼ	0	0	0	0	0	1	0	2	2	6	0	0	11
	ウニ類	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4
	オニヒトデ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小計	0	0	0	0	0	1	3	4	2	6	0	0	16	
甲殻類	ゾエア	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	小計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
軟体動物	蛸	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
生物種不明	0	1	1	0	1	2	14	15	8	4	0	0	46	
合計	2	2	1	2	6	10	99	98	30	15	3	0	268	

#### 5. 被害者の行動

受傷時の被害者の行動は遊泳が 217 件(81.0%)と最も多く、次いでその他 22 件(8.2%), 魚釣り 12 件(4.5%), ダイビング 6 件(2.2%), 漁労中と潮干狩りで各 4 件(1.5%), 不明 3 件(1.1%)であった(表 6).

遊泳中に刺咬症を引き起こした加害生物はハブクラゲが 118 件と最も多く、次いで加害生物不明 38 件, クラゲ類 31 件, カツオノエボシで 23 件であった(表 6).

#### 6. 海洋危険生物に関する知識の有無

県内在住の被害者 118 名のうち, 海洋危険生物に関する知識が有ると回答した人は 63 名(53.4%), 知識が無いと回答した人は 49 名(41.5%), 回答不明が 6 名(5.1%)であった. 一方, 海外を含む県外在住の被害者 137 名のうち, 知識が有ると回答した人は 31 名(22.6%)で, 知識が無いと回答した人は 90 名(65.7%), 回答不明が 16 名(11.7%)であった. また, 居住地不明の被害者 13 名のうち, 海洋危険生物に関する知識が有ると回答した人は 2 名(15.4%), 知識が無いと回答した人は 8 名(61.5%), 回答不明が 3 名(23.1%)であった(図 2).

表5. 沖縄県における加害生物別重症度の報告件数(平成29年)

	軽症	中等症	重症	不明	合計	
刺胞動物	ハブクラゲ	78	10	2	28	118
	クラゲ類	32	2	0	2	36
	カツオノエボシ	18	2	0	5	25
	ガヤ類	1	0	0	0	1
	不明刺胞動物	1	0	0	0	1
	小計	130	14	2	35	181
魚類	オコゼ類	6	0	0	2	8
	オニダルマオコゼ	4	1	0	1	6
	カサゴ類	2	0	0	0	2
	ミノカサゴ	1	0	0	1	2
	ウツボ	2	0	0	0	2
	エイ	1	0	0	0	1
	ゴンスイ	1	0	0	0	1
	フトツノサメ	0	1	0	0	1
	小計	17	2	0	4	23
棘皮動物	ガンガゼ	11	0	0	0	11
	ウニ類	2	0	0	2	4
	オニヒトデ	1	0	0	0	1
	小計	14	0	0	2	16
甲殻類	ゾエア	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	1	1
軟体動物	タコ	1	0	0	0	1
	小計	1	0	0	0	1
	不明	35	6	0	5	46
	合計	197	22	2	47	268

表6. 沖縄県における行動別加害生物被害報告数(平成29年)

	遊泳	その他	魚釣り	ダイビング (潜水)	漁労中	潮干狩り	不明	合計
刺胞動物	ハブクラゲ	104	8	4	0	0	1	118
	クラゲ類	31	2	1	1	0	0	36
	カツオノエボシ	23	1	1	0	0	0	25
	ガヤ類	0	0	0	1	0	0	1
	不明刺胞動物	0	1	0	0	0	0	1
	小計	158	12	6	2	0	2	181
魚類	オコゼ類	3	3	0	1	1	0	8
	オニダルマオコゼ	2	0	1	0	2	1	6
	カサゴ類	1	0	0	1	0	0	2
	ミノカサゴ	1	0	0	1	0	0	2
	ウツボ	0	0	2	0	0	0	2
	エイ	0	0	0	0	1	0	1
	ゴンスイ	0	0	1	0	0	0	1
	フトツノサメ	0	0	1	0	0	0	1
	小計	7	3	5	3	4	1	23
棘皮動物	ガンガゼ	9	1	0	0	0	1	11
	ウニ類	3	1	0	0	0	0	4
	オニヒトデ	1	0	0	0	0	0	1
	小計	13	2	0	0	1	0	16
甲殻類	ゾエア	1	0	0	0	0	0	1
	小計	1	0	0	0	0	0	1
軟体動物	タコ	0	1	0	0	0	0	1
	小計	0	1	0	0	0	0	1
	不明	38	4	1	1	0	1	46
	合計	217	22	12	6	4	4	268

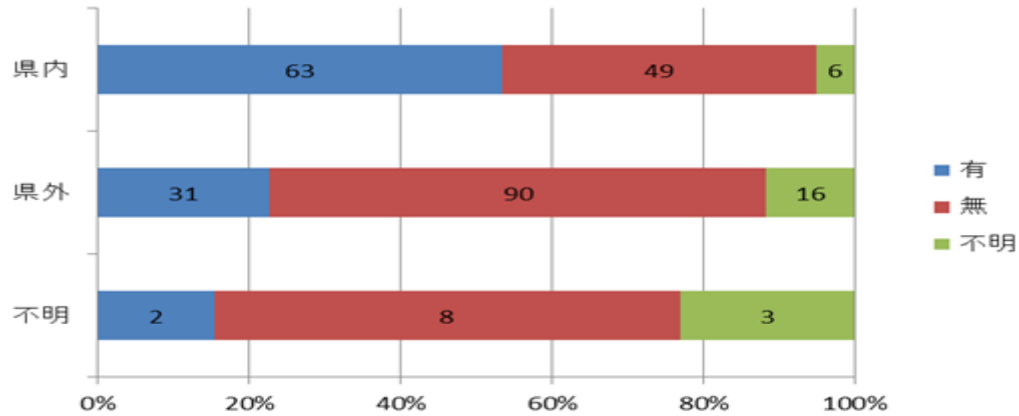


図2. 海洋危険生物による刺咬症被害者の海洋危険生物に関する知識の有無

表7. 沖縄県における月別市町村別ハブクラゲ被害報告件数(平成29年)

市町村	発生月												合計		
	4 中旬	5 上旬	6 中旬 下旬		7 上旬 中旬		8 上旬 中旬		9 上旬 中旬		下旬				
北部保健所	今帰仁村	0	0	0	0	0	0	7	0	4	1	0	4	1	17
	名護市	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	1	6
	本部町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
小計	0	0	0	0	0	3	9	0	6	1	2	4	2	27	
中部保健所	北谷町	0	0	0	1	5	6	14	1	0	0	0	0	0	27
	うるま市	0	0	0	0	1	0	1	3	9	2	0	0	0	16
	読谷村	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	5
	嘉手納町	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
	金武町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	宜野座村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
小計	0	1	0	1	6	6	16	5	14	4	2	0	0	55	
南部保健所	豊見城市	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0	0	7
	座間味村	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	4
	南城市	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	糸満市	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	那覇市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	久米島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	与那原町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小計	0	0	0	0	1	0	4	5	3	4	1	1	0	19	
宮古保健所	宮古島市	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	4
小計	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	4	
八重山保健所	石垣市	0	0	1	0	0	0	7	0	3	0	0	0	0	11
竹富町	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	
小計	1	0	1	0	0	0	8	0	3	0	0	0	0	13	
合計	1	1	1	1	8	9	37	11	27	10	5	5	2	118	

表8. 沖縄県におけるハブクラゲ防止ネット設置の有無とネット内外のハブクラゲによる被害報告数(平成29年)

	クラゲ防止ネット設置ビーチ			クラゲ防止 ネット無し	不明	合計
	ネット内	ネット外	不明			
合計	7	31	1	69	10	118



## 7. ハブクラゲによる刺症被害

今年のハブクラゲによる刺症は4月から10月にかけて発生し、最も多い7月には54件の被害が報告された(表7)。最も早い被害報告(竹富町)は4月13日であり、最も遅い報告は9月27日(今帰仁村)であった。沖縄本島では、5月8日に読谷村において最初の被害が報告された。

例年、八重山諸島は沖縄本島に比べハブクラゲの被害が早く報告されているが、過去18年分の被害報告の中でも3～4月のハブクラゲによる被害報告数は3件と極めて少なく、今回の件は他種の刺胞動物による被害報告の可能性もある。

ハブクラゲによる刺症報告は118件挙がってきているが、そのほとんどがネット外で発生しており、海を利用する人達には少なからず危険性があるという認識を持ってもらう必要がある(表8)。

また、市町村別被害件数は、北谷町が27件と最も多く、次いで今帰仁村で17件、うるま市で16件、石垣市で11件、以上の4市町村で10件以上の被害が報告された。近年では北谷町でのハブクラゲ被害報告が目立っていたが、現地スタッフが現場の防止ネットの運営方法の改善等を行い、平成28年に引き続き平成29年も報告数が減っている。

さらに、南部のある水浴場で行われたイベントで多くの子供がハブクラゲに刺されるという事故が発生した。

## 8. 観光客の被害報告数の増加について

沖縄県では年々観光客数が増加しており、去年は900万人を突破している。多くの観光客が沖縄県のマリンレジャーを体験していることが調査で分かっているのだが、それに伴い観光客と思われる県外在住者の被害報告が多くなってきている。この被害報告のとりまとめは平成10年から始まっており、当初は県内在住者と県外在住者の被害割合は2：1であったのだが、近年は1：1程で、去年からは県内在住者より県外在住者の被害報告数が多くなっている。また、例年八重山地方や宮古島地方は観光客の被害数が多かったが、近年は沖縄本島北部に観光客の人気スポットが出来、そこでの被害報告数が多くなっていることが北部地区の被害報告数を押し上げた要因となっている(表9)。

表9. 沖縄県における市町村別在住地別被害報告件数(平成29年)

	市町村名	県内	県外	不明	合計
北部保健所	今帰仁村	6	20	4	30
	本部町	5	16	0	21
	名護市	13	5	3	21
	大宜味村	2	1	0	3
	伊江村	2	0	0	2
	国頭村	0	1	0	1
	不明	1	4	0	5
	小計	29	47	7	83
中部保健所	北谷町	17	9	5	31
	うるま市	17	9	0	26
	読谷村	5	3	0	8
	嘉手納町	5	0	0	5
	恩納村	0	4	0	4
	金武町	3	0	0	3
	宜野座村	0	2	0	2
	中城村	2	0	0	2
小計	49	27	5	81	
南部保健所	豊見城市	11	1	0	12
	座間味村	3	7	1	11
	南城市	4	1	0	5
	糸満市	2	0	0	2
	那覇市	1	2	0	3
	久米島町	1	1	0	2
	与那原町	1	0	0	1
	不明	1	0	0	1
小計	24	12	1	37	
宮古保健所	宮古島市	6	22	0	28
小計	6	22	0	28	
八重山保健所	石垣市	8	22	0	30
	竹富町	2	7	0	9
	小計	10	29	0	39
合計	118	137	13	268	

#### IV. 謝辞

本調査を実施するにあたり、情報を提供して頂いた医療機関およびビーチ施設等関係者の方々、情報収集にご協力頂いた市町村および保健所の担当各位に深謝いたします。

#### V. 参考資料

- 福地斉志・安座間安仙・久高潤(2017). 海洋危険生物による刺咬症事故の概要－平成 29 年－ : pp. 1－4.
- 沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課(2013). 平成 24 年度観光統計実態調査.
- 沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課(2019). 平成 29 年(暦年)沖縄県入域観光客統計概況.